

VDR 消費者情報



特集：結婚しない三十路男性

令和元年10月24日発行（第39号）

発行者：坂上真介 編集長：飯岡竜馬

東京都品川区西五反田8-3-16

西五反田8丁目ビル4F

株式会社市場開発研究所

連絡先：Tel：03-5436-6222

Fax：03-5436-6232

調査の概要

- 調査方法：インターネット調査
- 調査期間：2019年9月22日～23日
- 調査対象：一都三県在住 30代未婚男性
- 調査数：1,000サンプル
※各年齢100サンプルずつ均等回収

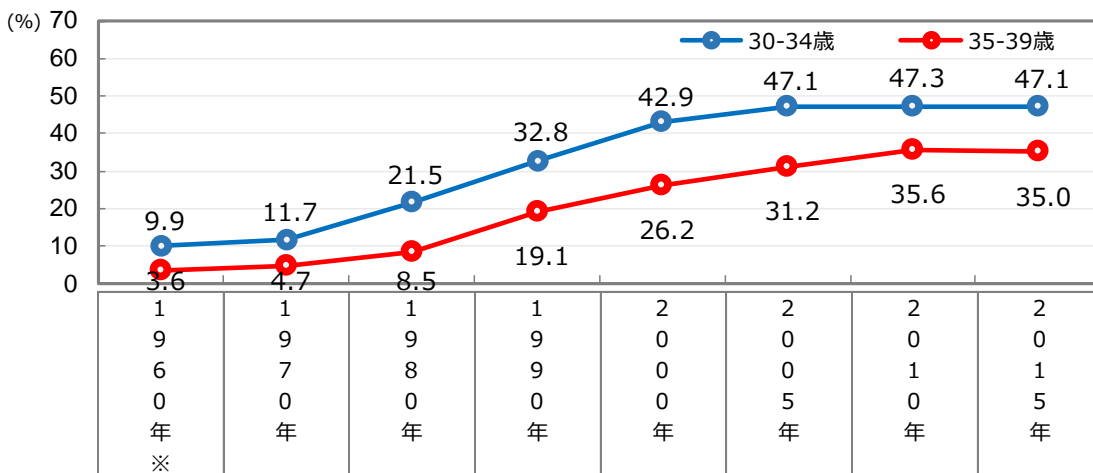
調査の背景と目的

気ままな独身生活を送るなかで未婚のまま40歳を迎えてしまった男性が主人公のドラマ『結婚できない男』の続編、『まだ結婚できない男』が2019年10月より放映されています。前シリーズが放映されたのは、30代後半男性の未婚率がついに3割を上回った直後の2006年でした。一昔前まで、30代の未婚男性といえば「結婚はまだか？」「いい人はいないのか？」「このままだと一生結婚できないぞ」と周囲から明白なプレッシャーをかけられる存在でした。しかし、そのような風潮も徐々に少なくなり、今では“独身”という生き方は選択肢の一つとして広く受け入れられつつあるのではないのでしょうか。32歳独身である筆者自身（結婚の兆しなし）も、口では「結婚したい」と言っているものの、正直なところ真剣に結婚について考える機会はほぼありません。

マーケティング的視点で考えると、結婚をするかしないか、家庭を持つか持たないか、といった選択は消費行動にも多大な影響を与える要素となります。本誌では、かつて結婚における1つのターニングポイントと考えられ、筆者自身も現在属している30代未婚男性を対象を絞り、交際状況や結婚意識を把握し、今後のマーケットについて考えたいと思います。

● 30代前半男性の半数近く、30代後半男性の3人に1人以上が未婚（国勢調査より）

- 直近の2005年～2015年にかけては横ばいとなったものの、1960年と比べ30代男性の未婚率は大きく上昇しました。
- 非正規雇用の増加や、女性の社会進出が進んだことなど、様々な経済的・社会的変化を背景として日本社会全体の結婚観や恋愛観も大きく変化してきました。かつては30代後半ともなれば結婚することは当たり前で、家族や知人も積極的にお見合いをセッティングするなど、強い働きかけをしていました。しかし、現在はそのようなことも少なくなり、「無理して結婚しなくても良い」「幸せなら独身でも良い」といった考え方が社会全体に広がっているように感じます。



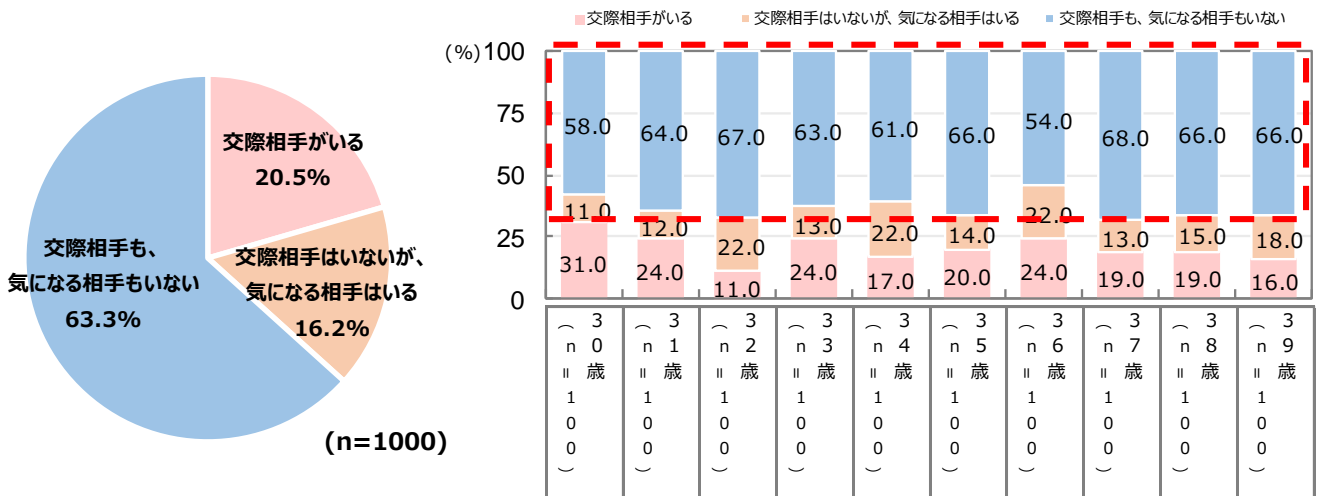
※沖縄県を含まない

総務省統計局『国勢調査報告』による

● 3人に2人が「気になる相手もない」30代未婚男性

- 今回行った調査の結果として、まずはじめに30代未婚男性の交際事情を確認しましょう。
- なんと「交際相手も、気になる相手もない」が6割以上を占め、各年齢別のデータでもその割合の高さが目をひきます。能動的な理由にしる受動的な理由にしる、30代未婚男性の多くが『恋』から遠ざかっている様子がわかります。
- ITの急速な進化やSNSの発達により、私たちは自身が心地よいと感じる関係性や環境を取捨選択し、どっぷりと浸かることが可能となりました。そんななか、承認欲求を満たし充足感を得るための手段として、『恋愛』を必要としない男性が増えているのかもしれませんが。

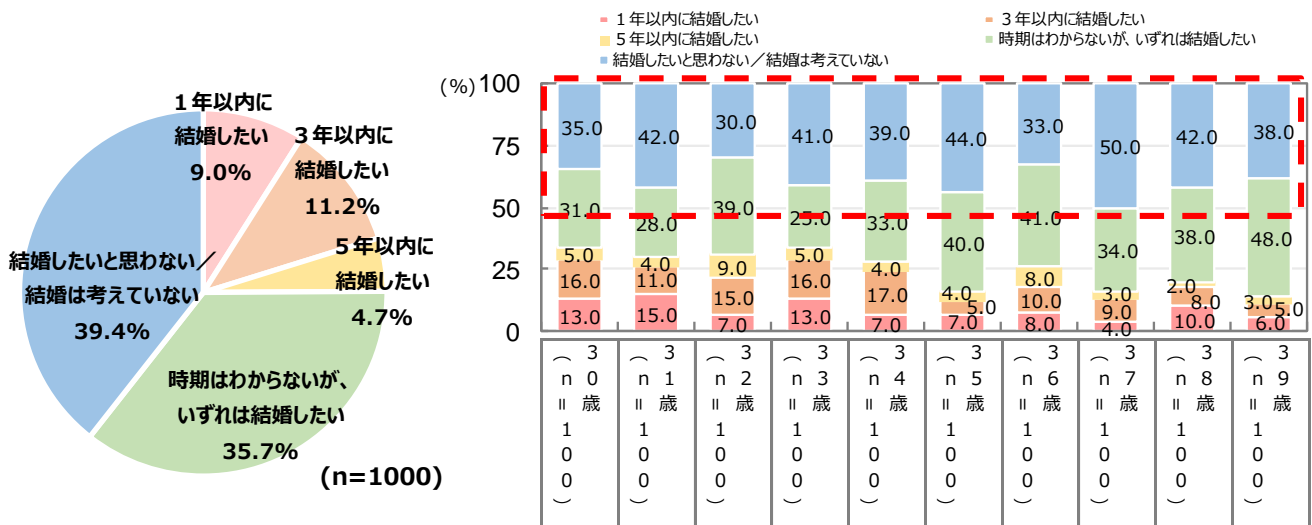
● あなたには、現在交際相手がいらっしゃいますか。(ひとつだけ)



● 30代未婚男性の6割が「結婚したい」と考えている

- では、結婚に対してはどのような考えを持っているのでしょうか。
- 結婚をしたいと考えている30代未婚男性の割合は6割となりました。『独身』という生き方が広く認められてきたとはいえ、『結婚』に対する憧れや、老後の独身生活に対する不安は、多くの未婚男性の心のうちにあるようです。また、漠然とした結婚意欲はあるけれども、なかなか行動に移すことができない未婚男性が一定割合存在する様子もうかがえます。
- とはいえ、30代後半の未婚男性でも「結婚したいと思わない/結婚は考えていない」という回答が3~5割を占めているという事実は、今後の生涯未婚率を考える上でも非常に重要な意味を持っているように感じられます。

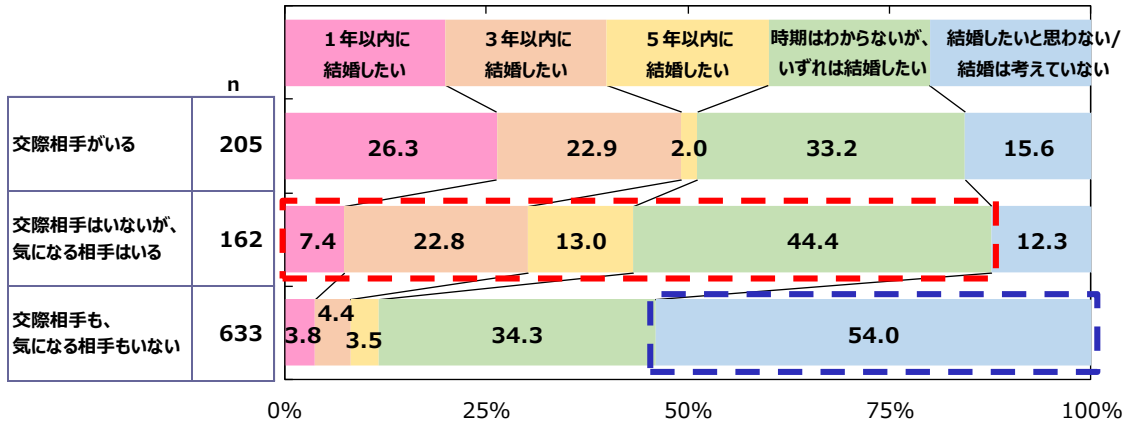
● 現時点での、あなたの結婚に対する考えをお教えてください。(ひとつだけ)



● 気になる相手がいないと、結婚意識は著しく低くなる

- 前出の2設問をクロス集計し、交際相手・気になる相手の有無別に、結婚に対する考えを確認します。
- “交際相手がいる”場合、当然のことながら具体的な結婚時期を意識する割合が高くなります。また、交際相手がいなくても、“気になる相手がいる”場合は9割近くが結婚意向を示しています。
- 一方で、今回調査対象者のうち6割強を占めている“交際相手も、気になる相手もない”場合では、その半数以上が「結婚したいと思わない/結婚は考えていない」と回答しています。つまり、調査対象者全体の3人に1人程度が、交際相手はおろか気になる相手もおらず、結婚する意志も持っていないという事実が浮かび上がります。

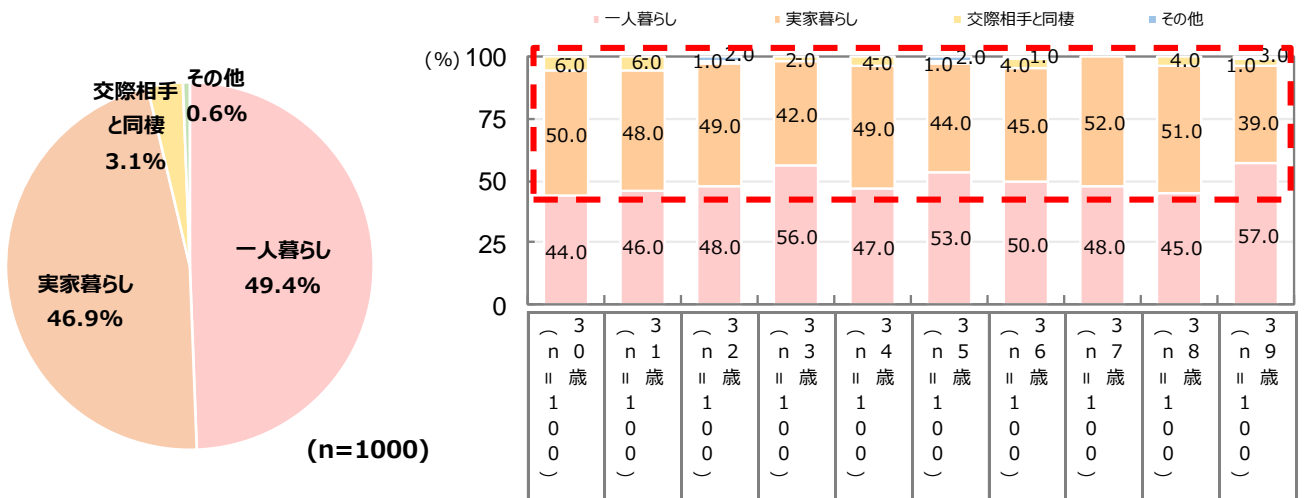
- あなたには、現在交際相手がいらっしゃいますか。(ひとつだけ)
- 現時点での、あなたの結婚に対する考えをお教えてください。(ひとつだけ)



● 30代未婚男性の半数近くが『実家暮らし』

- ここで少し視点を変えて、30代未婚男性の居住形態を見てみましょう。最近、ネット上では「成人後しばらくしても、実家のこども部屋に住んでいる男性」が増えていると話題になっていますが、実態はどうなのでしょう。
- 今回調査対象者では、「一人暮らし」と「実家暮らし」の割合がおおよそ半数程度ずつで拮抗するという結果になりました。
- 家庭の事情や立地など「実家暮らし」を選択する理由には様々な要因が考えられますが、先の見えない経済状況下で『可能な限り無駄な出費を避けたい』『利用できるものは利用したい』といった考えや、『安定・安心の生活から抜け出す必要性がわからない』『あえて肉親と離れて暮らさなくても』といった考えは、男性に限らず増えているように感じます。成人or社会人になったら実家を出なければ恥ずかしい、という社会通念が薄まりつつある今、「実家暮らし」の割合は更に増えていくのではないのでしょうか。

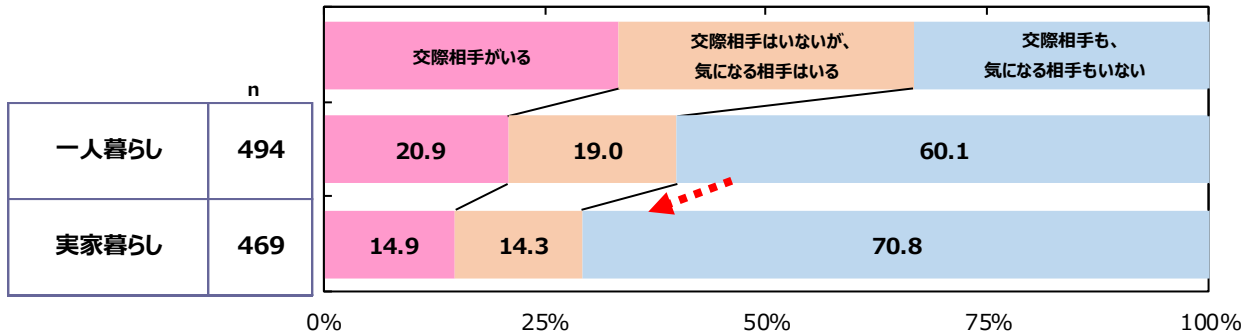
- あなたの現在の居住形態をお教えてください。(ひとつだけ)



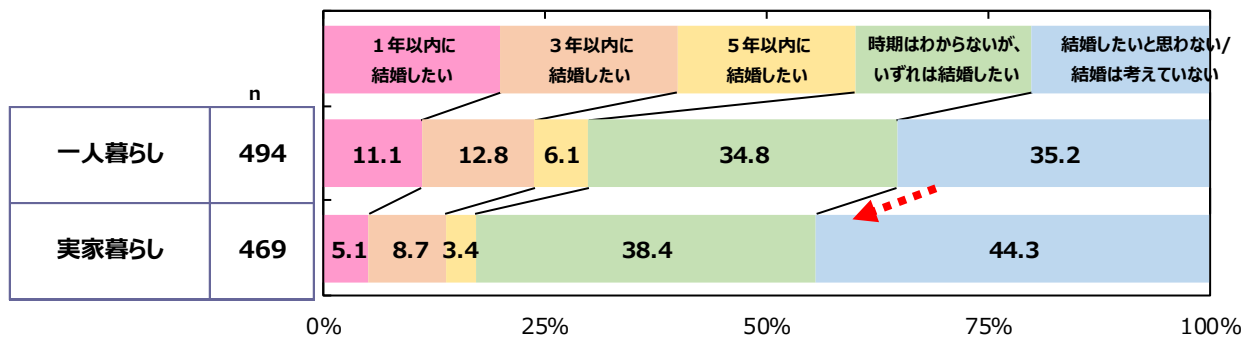
● 結婚からも恋愛からも遠ざかる「実家暮らし未婚男性」

- それでは、“一人暮らし”と“実家暮らし”では、交際状況や結婚に対する考えに違いはあるのでしょうか。
- “実家暮らし”の場合、「交際相手も気になる相手もない」と「結婚したいと思わない/結婚は考えていない」の割合はともに“独り暮らし”を1割程度上回ります。
- 特に“実家暮らし”のうち7割が「交際相手も、気になる相手もない」という状況からは、“実家暮らし”から得られる安心感や気楽さが、新たな出会いや人間関係を構築しようとする意欲や異性に対する欲求を削いでしまっているのではないかと考えてしまいます。一方で、“実家暮らし”未婚男性に対する女性からの眼差しはどのようなものなのでしょうか。筆者は厳しいものを感じていますが、気になるところです。

- あなたの現在の居住形態をお教えてください。(ひとつだけ)
- あなたには、現在交際相手がいらっしゃいますか。(ひとつだけ)



- あなたの現在の居住形態をお教えてください。(ひとつだけ)
- 現時点での、あなたの結婚に対する考えをお教えてください。(ひとつだけ)



まとめ

2015年国勢調査における男性の生涯未婚率は23.4%となりました。つまり、男性の4人に1人が結婚をせずに生涯を終えるのです。この数字は今後も上昇を続け、2040年には30.0%に達すると考えられていますが、今回の調査結果からもそのような未来が訪れることは容易に想像ができます。もし『実家暮らし』の男性が今後増えていけば、更に早いスピードで生涯未婚率が上昇する可能性もあります。

日本全体の人口が減少していく中で、もはや“結婚しない男性”の存在感は各企業にとって無視できないものとなっています。今後、既婚男性とは全く異なる消費意識や消費パターンを持つ彼らを分析していくことは必要不可欠な作業と言えるでしょう。夫でもない、父親でもない彼らの消費行動は非常に自由度が高いものです。また、自身の欲求や衝動に従ってスピーディーに、そして集中的な購買へと移ることができる点も大きな特徴と考えられます。従来型にはまらず、既婚者とは異なる欲求を持つ彼らの購買意欲をいかに喚起することができるか、1人1人が持つ異なるニーズに対応する商品・サービスが提供できるか、サブスクリプションやダイレクトマーケティングの観点から分析してみるのも面白いかもしれません。

特に、『実家暮らし』未婚男性の消費行動や市場規模は、ほぼ何もわかっていないというのが現状です。今後も、彼らの動向に注目し、調査を進めていきたいと思えます。

(営業企画部/飯岡竜馬)

ご希望の方には、今回調査した全てのデータをお渡します。お気軽に営業担当までお問い合わせください。